

# カンボジアに51も学校建てた



帰国したマリコ代表は、気さくにフリーマーケットに溶け込む



「カンボジアに学校を贈る会」というグループが柏市にある。その事務局長になった友人にいわれて、グループが開くフリーマーケットをいくつか見学した。出品された衣料品などを見ているうちに、カンボジアから、たまたま帰っていた代表の岡村真理子さんに会い、話を聞き、講演にも出かけた。人を引きつけ、柔らかく包んでしまうような雰囲気のある人である。その人が、内戦続きの戦火でゼロになった貧困、残っている地雷、そこに学校を作ることの困難と意義を話してくれる。学校といっても様々だろうに、この真理子さんが始めた「ボランティア事業」は、匹夫の想像を超え、ご本人の確固たる信念が人を動かし、着実に実を結んでいる。

地雷を踏み越えて！

ボランティア活動



5教室が標準だという。また新しい学校のオープン

真理子さんが、カンボジアへ行ったのは、九二年の総選挙監視要員としての国連ボランティア。そして九四年に再訪したとき、ズタズタに引き裂かれた国を再建するのは教育しかない、微力ながらお手伝いを、という決心をしたという。そして、「贈る会」がスタート、寄附金と助成金、ボランティア活動ですでに五十一校を建設、開校させた。寺小屋ではない。カンボジアでは五教室の学校が標準的で、一校建てるのに四、五百万円かかり、レンガ四万個を使う。レンガひとつは約百円、「レンガひとつ分の協力！」という呼びかけが広がっていったのである。

逆井漫歩41

平成14年  
2月